

# 丹沢水無川本谷 山行報告

【日時】2018/11/03(土)

【参加者】CL渡邊 3(記)、SL 小原、大塚

【コース・タイム】

千葉5:00 → 市川5:30 → 東名高速道 → 秦野中井IC → 戸沢P 8:00 →  
本谷廻行 → 13:00塔ノ岳山頂14:00 → 戸沢P 16:30 → 入浴、帰葉

【報告】

水無川本谷は塔ノ岳へ直接突き上げる沢です。ヒルの心配のないこの時期に登ることにしました。川原に入ってまもなく現れる堰堤は右岸から越える。堰堤先は灌木混じりのゴーロ歩きだが、次第に巨岩が目立つようになり小滝をいくつか越えると前方に二条の滝(F1・10m)が現れ右岸の岩を小さく巻く様につけられた鎖場を登って越える。

F1



F5



小さな釜のあるF2は左岸直登。F3は滝の手前の右岸側スラブから高巻く急斜面のトラバースあり。F4(8m)は右岸から登る。F5は鎖が設置されている左岸の外傾バンドを登る。この鎖場は長くて高度感がある。ロープを出し鎖にセルフビレーを取りながら慎重に登った。

F6



F8



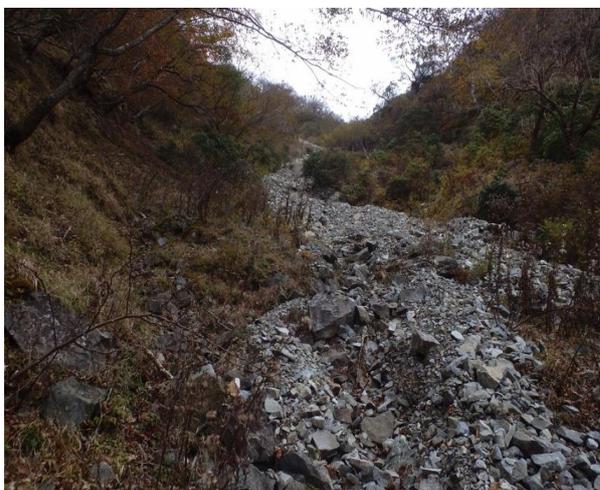
書策新道交差点、手書きの標識のある登山道の前で休憩。

程なく右岸に岩壁の涸滝がある沖ノ源次郎沢が入る。書策新道登山口ですれ違った3人が取り付いていた。すぐにまた二俣となる。左右とも水流があり同等規模で戸惑うが、地形図で木ノ又大日沢との出合と特定できた。左の本谷には→の道標もあるし（笑）

本谷を進むと大岩の挟まったチョックストーン滝が現れる。F6は右壁と右のチョックストーンの間をフィックスロープA0で登る。F7の看板があったが滝はなかった金冷シ沢が右岸から入る。やがてスケールの大きい滝F8三段30mが現れる。

崩壊が進みボロボロで異質な世界。看板手前から左岸を高巻くが悪い。

F9



本谷に戻ってガレ沢を歩き2箇所二俣が現れFの看板があるガレ場を登ると逆層のF9がある。巻き道を登り適当に沢に戻るがガレ酷く傾斜もあり歩き辛い、左の小尾根を登る事にした。立ち木を掴みながら汗まみれで急登を登る。

そのうち声が聞こえ、頂上間近の登山道に出た。複数の登山者に横目でチラッと見られるが挨拶もない。何だか場違い。いそいそと塔の岳頂上に、そこには綺麗な格好の登山者が大勢いる。まさに場違い、下記の写真を撮り片隅で汚れた靴を履き替え、ハーネスを外し休憩。

下山は大倉尾根→天神尾根を予定していたがあまりの人で歩き辛い、花立から源次郎尾根で下山した。倒木がうるさかったが我々しかいない静かな下山道だった。

